

電子辞書からiPadへ 乗り換えはJamf Proでスムーズに実現、さらなる拡大も

八千代リハビリテーション学院 様
Appleデバイス管理ソリューション Jamf Pro導入事例

 jamf | PRO

八千代リハビリテーション学院は、千葉県八千代市にキャンパスを構える、理学療法士・作業療法士の養成施設です。九州地方でリハビリを軸とした病院を運営し、地域のリハビリ病床不足の改善に力を注いでいるカマチグループの学校法人 巨樹の会に属しています。

理解力を高め、対人力を養う「グループワーク」は、同校の学びにおける大きな特徴の一つで、iPadを中心としたAppleデバイスが大いに役立っています。それらを一元管理するため、Apple専用の統合デバイス管理ソリューション「Jamf Pro」をご導入いただきました。

八千代リハビリテーション学院の副学院長代行の野見山通済先生、理学療法学科の仲村匡平先生、作業療法学科の中田孝先生に、学院でのJamfおよびAppleデバイスの活用状況についてお話を伺いました。

電子辞書からiPadへの乗り換えをJamf Proでスムーズに実現

●iPadを入学者全員に無償貸与、卒業時にプレゼント

本校では新入学生にiPadを無償貸与して、学習に役立てています。こちらは入学時には貸与の形ですが、卒業時にプレゼントします。

以前は教材としては、医学辞書が入った電子辞書を購入してもらい、使用していました。電子辞書はとても高価であった割には、その機能だけしかないデバイスです。「いまの時代に合わないのではないか」と議論になり、インターネットを使った方が良質な情報にアクセスできるという結論から、iPadの導入を決断しました。iPadにはいろいろな機能がありますし、Wi-Fi導入のコストが下がったことも理由の一つです。

解剖学で学ぶ様々な臓器の図や運動学で学ぶ患者さんの動きは、電子辞書では表示することができません。それに対してiPadは汎用性があります。ネットで調べることができるので、画像や動画を含め、膨大な量の医学に関する資料を簡単に閲覧できます。電子辞書も手軽で便利ですが、教材としてはやはり汎用性の高いiPadには敵いません。



iPadは学生が使いやすい端末

● 学生の自主性に任せれば、意外な使い方を学生自らが考案して活用

1人1台、自分だけのiPadを自由に使用しているので、学生もいろいろなことに使ってるようです。基本的に機能や閲覧に制限は設定せず、利用は生徒の自主性に任せています。その結果生徒自身が独自の利用法を編み出して活用しています。

授業資料を写真に撮ってテキストを書き込んでみたり、それらの独自に作成した資料を手軽に共有したり…。我々が思ってもみないような使い方しているのに驚かされるようなこともあります。

アプリのインストールに関して、学生に対して特に何かサポートをしているということではありません。例えばこちら側で指定したアプリが生徒側のデバイスの容量不足でインストールできないといった際に確認してあげているといった程度です。

アプリの導入調査もしていません。問題が顕在化した時に対応する程度で、特に制限はかけていません。アプリに関してはほぼ学生に任せています。

● グループ学習にもiPadが活躍

iPadは、主に調べもの、資料作成、資料閲覧などに使用しています。医学のことなので調べものは非常に多くなります。動画が扱えることのメリットも大きいですね。評価学では関節角度測定や筋力測定の練習する様子を他の学生に撮影してもらい自分で確認することができ、よりスムーズに、安全に実技を身につけるのに役立っています。

資料作成についても、かつてはパソコンで作っていたものが、手元で閲覧・確認できるiPadを使うことにより、コミュニケーションを取りながら進めることができるようになりました。お互いに資料を作って行う発表は特にスムーズです。

iPadの導入によって、学習の質が知識面でも技術面でも向上したと言えるでしょう。

● コロナ禍での遠隔授業にもiPadが有効

このコロナ禍においては、遠隔授業などにも無償貸与のiPadの用途が広がっています。台風で電車が動かない場合や、熱発によりPCR検査待ちといった場合には、ZoomにつないでiPadで授業に参加することができます。

本年度の新入生は入学後に登校できなくなりましたので、分散登校の際の限られた時間の中でMDMによるアプリ等の配布を行い、Zoomへ誘導するようにしました。Jamfによるスムーズなキッティングが、限られた登校時間の中でデバイス管理・設定に大いに役立ってくれました。



学生自身の手で自分のiPadを使用できる状態に

● iPadの一括管理のためJamfを導入

授業の中でiPadを活用するのでMDMは必須であると考えており、iPadの一括管理の方法としてJamfを導入しました。2018年の3～4月にiPad入れることを決めましたが、その際にMDMは3製品ほど候補がありましたが、中でもJamfはバージョンアップ対応が早いというのが大きな魅力でした。台数が多いので特にバージョンアップ対応は困難ですが、その対応が早いというのがポイントでした。

iPadは生徒が入学する際にパッケージ未開封のまま渡しています。あらかじめJamfで端末の初期設定を定めて簡単な手順動画を示すだけで、生徒がパッケージを開け、初めてネットワークに繋いだときに自動的にiPadの設定が行われるので、従来必要であったキッティングのコストを削減することができました。

キッティングは外部に委託するとどうしてもコストが大きくなります。スムーズで、かつ人的ミスも削減できますし、Jamfを活用することで学生自身の手で自分のiPadを使用できる状態にすることで、多くのメリットが享受できている状況ですね。

生徒も自らの手で設定できたiPadにはなおさら愛着を持ち大事に利用してくれるので、端末交換や修理のための業務削減にもつながる副次的な効果もありました。

現在、限られた教員のみがJamfを使ってデバイス管理ができる形で運用していますが、学生が紛失した際など、トラブルには速やかに対応できています。

Jamfは海外からのツールですが、管理画面はローカライズされて快適に使用できています。こういった部分でも常に進化しており、安心して利用しています。

管理台数が増えても管理工数は変わらず、安心して運用規模を拡大できるJamf

● 今後はApple Pencilの導入を検討

今後の当校としての取り組みですが、Apple Pencilの導入を検討しています。九州のグループ校(福岡和白リハビリテーション学院、小倉リハビリテーション学院、下関看護リハビリテーション学校、武雄看護リハビリテーション学校)ではすでに導入されていますが、当校でもぜひ導入を進めたいと考えています。

Apple Pencilを使い、デバイス上で直接入力できるようにすれば、アーカイブが作りやすくなり、後で復習しやすい形になります。

テキストベースの教材が多いので、動画や画像とともにテキストの入力も快適なiPadがうまく活用できています。当校と類似した教育内容の学校では、iPadは生徒が使いやすい端末であると言えると思います。

● グループ内での利活用拡大にチャレンジ

これまでJamfを利用してきて、MDMの活用法やデバイスを管理するノウハウが蓄積しました。最初は1校から始めましたが、現在では5校、1,894台(2021年4月現在)のiPadの管理と運用に活動の幅が広がっています。

Jamfの良いところは管理台数が増えても、管理工数が増加しないところです。これにより、安心して運用規模を拡大でき、iPadの活用に可能性を感じています。グループ内でのiPadの特色ある利活用へのチャレンジに取り組んでいきたいと思っています。